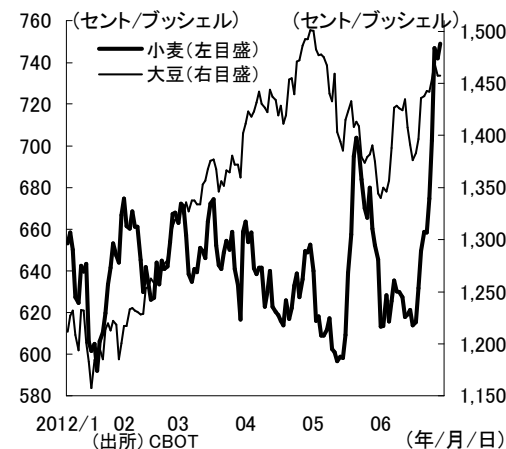


強含む小麦・大豆価格

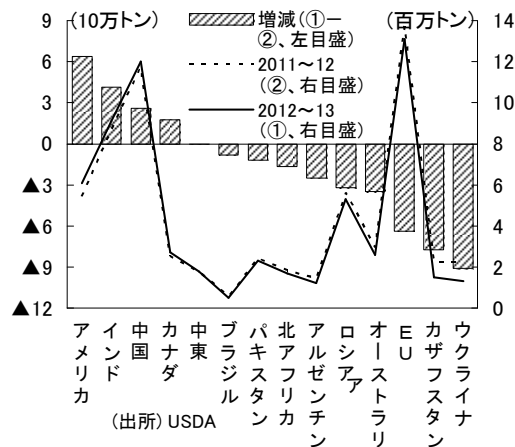
～ 拡がる需給懸念 ～

- (1) 6月入り後、穀物価格が再び強含み。小麦は6月半ばから急上昇（図表1）。24日に1ブッシェル当たり7ドル台乗せ。27日は終値ベースで7.5ドルに。月間平均でみれば、昨年5月の7.8ドル以来。最高値圏が間近に。一方、大豆は昨年末の同11ドルを底にほぼ月を追って上昇。4月末に15ドルと過去最高値更新。5月は弱含んだものの、6月に入り再び騰勢。27日は14.6ドルへ。
- (2) 価格上昇は需給逼迫懸念の拡がり。まず小麦では、6月12日に米農務省が公表した世界小麦需給予想。2012～13収穫年度の生産量を5月予測比さらに引き下げ、前年差▲2,258万トンのマイナス。国別には、米印中加4カ国の増産に対して、EUやロシアをはじめ4カ国以外の主要生産国が軒並み減産（図表2）。異常気象による水不足や高成長に伴う耕地減少など、要因は国別に異なるものの、早急な事態好転が期待薄ななか、発表翌日から値上がり。
- (3) 次に大豆では2011～12収穫年度の収量見通しが月を追って下方修正され、本年初来、価格上昇。同年度の収量が2.4億トンと前年比▲0.3億トンの大幅マイナスに落ち込み、期末在庫は0.5億トンと08～09年度以来の低水準に（図表3）。5月に入り、ラニーニャ終息から需給緩和期待が一時拡大。しかし世界的な大豆産地の一つである中国東北部は、昨年半ば以降、深刻な降水不足に直撃されたうえ、本年5月再び降水不足に（図表4）。吉林省の降水不足が際立って例年比大幅。5月半ばから6月初が東北部の播種期。播種見送り懸念が拡がるなか、6月入り後、大豆価格が再上昇。
- (4) 改めて小麦生産減産国をみると、ウクライナやカザフスタン、EUやロシアなど中東近隣エリア。昨年初、勃発したアラブの春はロシアやウクライナの小麦禁輸が導火線の一つ。一方、増産が見込まれている中国では、6月に入って少なくとも23日までの処、穀倉地帯である華北平原の降水量が例年を大きく下回る少雨。穀物、さらに一次産品全体で一段の価格強含みが視野。

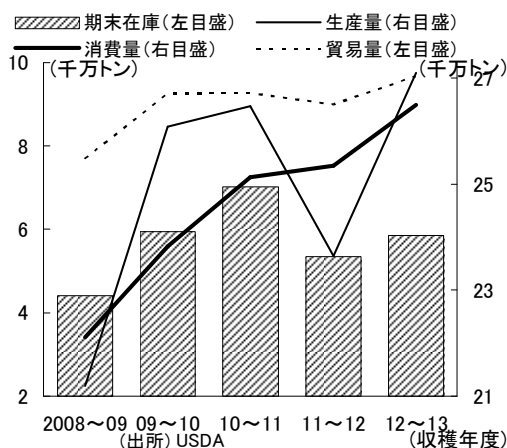
(図表1)小麦と大豆価格



(図表2) 主要国の小麦生産量



(図表3)世界の大豆生産・消費・貿易・在庫量



(図表4)中国東北部の降水量(平年差)

